

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホーム ポランの家		
所在地	余市郡余市町大川町8丁目11番地 (電話) 0135-22-1577		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年9月28日	評価確定日	平成21年10月10日

【情報提供票より】 (21年 8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤15人, 非常勤 6人, 常勤換算	16.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費他 35,000 円
			暖房費(11~3月)5,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	821 円	

(4) 利用者の概要(8月 25日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	4名	要介護2	8名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 76歳	最高 101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院、林病院、小嶋病院、森川歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、運営者の介護福祉事業に対する厚い志が運営に反映され、職員は利用者が地域の中でその人らしい暮らしができるよう努力しています。家族は、利用者がホームの明るい雰囲気の中で、利用者本位のケアサービスを受けながら、家族的で楽しい生活を過ごしていると感謝しています。職員の研修参加、有給休暇実施や手当の支給、食費一部負担など、人材を大事にする運営者の方針が働きやすい職場環境を作りあげ、これが職員の利用者へのケアサービスに反映されており、優れたグループホームとなっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で指摘された二つのユニットにおける自己評価の同一性は、現実的に両ユニットに大きな差はありませんが、両ユニットのアクティブケアとメンタルケアの相違から自己評価を改善しています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価への取り組みは、職員全員から評価への意見を聞きながら、担当者と管理者がまとめています。評価結果からの課題はミーティング等で検討しながら改善に努めています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、ホーム見学会や行事に合わせて実施するなど、メンバーが参加しやすい工夫をしながら開催しています。会議は運営状況報告と災害訓練等への協力要請、参加者から質問や要望など意見交換がなされています。会議結果は職員にも報告され、課題についてはミーティング等で検討しながら、利用者のサービスに反映させるよう努めています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの要望等は、家族来訪時に話を聞くようにしていますが、家族に意見や要望書の用紙を配布して回収しています。意見や要望等があった際には、その都度ミーティング等で協議しながら、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは、開設当初から利用者が地域の一人として、その人らしい暮らしができるよう努めています。地域の諸行事には利用者の身体状況を勘案しながら、清掃活動に参加したり、ホームから町内会行事へ物品を提供するなど、周辺住民との親しい関係が構築されています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の設立目的の一つに、利用者が住みなれた地域のなかで、その人らしい生活が出来るようにすることを挙げています。ホームはこの目的を運営理念として、利用者へのサービスに努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の日常業務やカンファレンス、スタッフ通信などを通して理念に基づくサービスのあり方を共有し、確認しながら実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと地域の連携は、ホーム開設当初から優先事項として取り組んでいます。利用者の地域行事への参加は身体状況から限られますが、環境整備のお手伝いや祭事に物品を届けるなど、地元の人々との交流が進んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と必要性は、以前から職員に説明されており、自己評価作成に際しては職員全員の意見を参考にしてまとめています。評価結果からの課題は、ミーティング等で検討しながら取り組むようにしています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに町担当者や民生委員等も入っており、会議では運営状況報告や意見交換の他に、ホーム見学会やホーム行事への参加などを実施しています。各種要望や意見等は内部で検討しながら、利用者へのサービスに反映させるよう努めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長（管理者）は、地区のグループホーム協議会会長を務めており、町担当者との接触も頻繁にあるなど、行政との連携は密接な関係にあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、ホーム来訪時に説明していますが、ホーム便り「ポランの家」で利用者の暮らしぶりを写真入りで詳細に伝え、利用者一人ひとりの家族通信欄も設けています。また、病状等の変化があった場合は看護師からその都度報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情処理体制は整えられていますが、さらにホーム独自に家族へ意見や要望等の用紙を配布して、ホーム運営に反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは、人材を大切にする運営法人の意向もあり、最近は離職者が少なくなっていますが、職員の交代等があるときは、利用者の状態に合わせながら、個別対応で不安など影響を与えないよう配慮しています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、OJT（現場研修）を中心に、ミーティングなど会合でも行なっています。外部研修は、グループホーム協議会等各種研修に、費用を運営法人が負担しながら参加させており、介護福祉士等の国家資格取得にも積極的に支援しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは北海道グループホーム連絡協議会や余市ケアマネージャー協議会、今年発足した余市町グループホーム連絡協議会に加盟し、情報交換をしたり施設見学会を実施するなど、同業者との交流が積極的に行なわれています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての入居者には、事前に家族とも十分に話し合って生活歴を把握し、医療機関とも相談しています。特に入居当初は利用者の状況を見極めながら、ホームの生活に馴れて不安がないよう職員が気配りしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、過去の職歴や経験から種々の知識があり、食事関係も利用者と職員と一緒に調理を行なうなど、和やかな雰囲気の中で共に支え合いながら暮らしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者によっては思いを内在化する傾向もあるため、日常会話の中から総合的に判断したり、顔の表情や行動から利用者の思いを把握するようにしています。そして、できるだけ利用者の方から職員に話しかけていただけるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、事前に家族や利用者からの意見や要望の把握、医療機関との相談を行ない、これらの情報を基にモニタリングやアセスメントを行ない利用者にもっとも適した介護計画を作成して職員の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に定期見直しを行なっていますが、利用者の身体状況の変化に応じて、医療機関に相談しながら随時見直し、職員の看護師から家族に説明しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の医療機関への通院、選挙、花見など、楽しみごとへの外出にホームの車両を利用して支援しています。さらに、ホーム内に相談室を設けて家族への対応ばかりでなく、外部からの相談に応じています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居前のかかりつけ医への通院継続は自由です。その際は原則として職員の看護師が同行して利用者の健康状態を説明しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、利用者の重度化や終末期に対応するため医療連携体制を整えており、指針を作成しています。家族へは重度化や終末期におけるホームの方針を説明しており、職員もこの方針を理解し、共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を重視し、日常のケアサービスにおいても誇りやプライバシーを損なわないよう配慮しています。利用者の介護計画など各種記録の扱いも関係者以外に知られることのないように管理されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はホームの都合を優先したり、職員の一方的支援にならないよう注意し、利用者一人ひとりが毎日を楽しく過ごせるよう、気配りしながら支援をしています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの台所で利用者と職員と一緒に会話をしながら、食事作りや後片付けを行なっています。食事中も同じ食事を利用者一人ひとりのペースに合わせてながら摂り、楽しそうに過ごしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回を基本として実施しており、利用者の状況に応じて全身シャワー設備の利用も可能です。入浴を拒む利用者には無理をせず、入浴したくなるような工夫をしながら対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、過去の生活歴から調理、農作業など得意分野があり、これらを自分の役割として過ごす方もいます。また、ホーム内ではボランティアによるバイオリンや押し花作りなどを楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは、利用者が地域に溶け込んで生活することを重視し、日常的に散歩や公園散策、地域行事への参加を積極的に実施しています。また、ホームの車両を利用して花見などの外出支援を行ない、利用者に喜ばれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠は無く、各ユニットは24時間フリーです。利用者が外出を望む時は、その都度職員が付き添って支援しています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは防災規定を設け、避難訓練等は消防署の協力をいただきながら、定期的に行っています。非常通報体制も地域の方々にも協力をいただき、ホットラインを形成しています。	○	運営推進会議を通して地域住民に避難訓練の重要性や協力要請をしていますが、今後は、ホームの避難訓練時に見学やお手伝いなど、実際に参加していただくことを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養摂取や水分確保は、摂取管理表を作成し、利用者の体調等を考慮しながら支援しています。特に、食事についてはカロリーを押さえながら、見た目も工夫しながら提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共用空間はゆったりと広く、清潔感があります。居間兼食堂には季節の植物、手作りの壁飾り、写真などがバランス良く飾られ家庭的雰囲気の中で利用者は寛いで過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入口には好みの暖簾が飾られ、室内には広い収納スペースが設置され、持ち物などを整理しやすくなっています。利用者は自分の使い慣れた調度品等を自由に持ち込み、居心地良く暮らしています。		

※ は、重点項目。